

2013 年度ドクター研究員研究活動実績報告書

ふり 氏 がな 名	あなざわ 穴沢 しょうこ 彰子
(研究テーマ名) 宋代地域社会における士人層と地域信仰とのかかわり	
(研究活動実績) <p>前年度の ROV の海外派遣事業を利用した台湾・清華大学、中央研究院における資料収集、研究指導、現代台湾の寺廟巡見の成果をもとに以下の論文をまとめた。</p> <p>都市とその周辺地域の交流が行われるライフスタイルから、地域の治安維持や地域防衛は、都市とその周辺郷村地域を含んだ広範囲で行われていた。主に郷村地域から職役制に基づいて徴発された弓手も、訓練と生活の場は県城内やその近辺にあり、活動範囲も県内に限らず、郷村地域にも及び、即ち都市を中心として周辺郷村との武力の交流が地域防衛の基盤にあった。</p> <p>また民衆の側においても商人層などが豊かな経済的基盤・様々なネットワークを駆使して治安維持・地域防衛が実行された例も数多い。</p> <p>しかし、反乱など大規模な地域社会の危機の場合、重要なかなめとなったのが地域官僚とその行政システムである。地方官僚は、機能不全に陥っていた治安維持的職役制を立て直し、地域財政の中心という都市の強みを利用して多くの人員・武器を集め、防備を固めていた。それ故に周辺地域の住民は都市に避難し、非戦闘員も組織して後方部隊に投入した。このように組織された者の中には、都市のアウトロー・貧民層までも含まれていた。</p> <p>そして上は官僚層から下はアウトローまで、階層・立場を超越して地域防衛に編成できた地域の精神的な紐帯こそが、廟に代表される地域信仰の場である。廟を媒介とした商人・職人のもつ広いネットワークが地域防衛活動の重要な役割を果たしていた。</p> <p>以上は、2013 年 4 月 13 日第 156 回宋代史談話会（比較都市文化史研究会と共催）にて「宋代の都市とその周辺域の統合における寺廟の役割についてー在地防衛の実態を中心にー」として発表した。</p>	